

KUCAヒアリング資料に対する質問(R3/6/28送付版)

NO		質問	ページ	該当箇所	回答	備考
1	解析条件	設計基準事故の一つである燃料の機械的破損について、軽水減速炉心では最小臨界量の炉心を代表炉心とするとしているが、固体減速炉心と同様、最小炉心が厳しいことを説明すること。	資料1 p39	4-2		
2	事実確認 図表の追加	設計基準事故の一つである燃料の機械的破損について、代表炉心として選定したL3P-50炉心について、単位出力当たりの燃料体積分出力の水平分布を数値で示すこと。また、固体減速炉心の全代表炉心について、燃料体1体の積算出力が最大となる燃料体の位置が炉心中央部でない場合はその位置について記載すること。	資料1 p43	4-2		
3	事実確認 図表の追加	設計基準事故の一つである燃料の機械的破損について、軽水減速の代表炉心として選定しているC45G2(4列)炉心の燃料体毎の出力の水平分布が分かる図を示すこと。	資料1 p43	4-2		
4	解析条件	実験設備、実験物の著しい損傷について、FPの放出率を燃料体からの放出率と同一の10%を用いているが、試料中のFPの飛程の観点から同一の放出量と考えらえる理由について説明すること。(定量的な評価が困難である場合は、放出率は100%とするのが適当)	資料1 (p0)	4-3		
5	解析条件	実験設備、実験物の著しい損傷について、0.1% $\Delta k/k$ の反応度に相当する試料の重量を評価するにあたって炉心中心に試料を入れたことを想定しているが、重量の最大値になっていることを説明すること。	資料1 (p0)	4-3		
6	事実確認 図表の追加	実験設備、実験物の著しい損傷について、天然ウランおよび濃縮ウランの代表炉心として選定したL5.5P-30、L2P-50炉心の熱群中性子、及び熱外中性子と高速中性子の炉心中心を通る水平分布を示すこと(単位出力当たりの値)	資料1 (p2)	4-3		
7	事実確認 図表の追加	実験設備、実験物の著しい損傷について、0.1%の反応度に相当するウラン量を摂動理論により評価しているが、計算方法について、具体的に説明すること。	資料1 (p2)	4-3		